

第25期<2018.10.1～2019.9.30>活動報告

■ 1年間のまとめ

第25期は次の6つの課題を掲げて活動しました。

- 1) 各部会の活動により、歴史的建造物の保存・活用に対する所有者支援や建造物の文化財登録を推進します。
- 2) 次世代に引き継ぐため、会の活動を整理し、組織強化を進めます。
- 3) 見学会・講習会・シンポジウム等を開催し、古建築や再生建築の良さを市民等に普及・啓発します。
- 4) 会員の相互交流を強め、併せて、国や地方行政機関を含む関連団体との連携を図ります。
- 5) 財務活動を柱にNPO法人の運営能力を高めます。
- 6) 「京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）」を事務局団体として継続開講します。

古材文化の会の25期の活動は、この6つの課題を基本に行いました。会の活動の現状は、一言で言えば多様な分野で多様な会員が活躍し、貴重な成果を積み重ねています。

■ 部会等の活動報告

(1) 利用相談部会＋古材文化の会設計室

①利用相談部会は、古い建物の再生や古材の利活用などの相談に応じる部会で、現在14名の部会員で構成しています。利用相談の依頼に対して毎月の定例部会で協議し、「古材文化の会設計室」と共同して対応を行っています。

昨年度の建物の保存活用等に関する問い合わせは、部材提供を含めて9件ありました。現在、古材文化の会設計室では登録有形文化財となっている住宅改修工事の設計監理、京都市指定有形文化財の修理に関する調査などを行っています。また昨年12月には設計監理を委託されていた美山町での附属屋（通称やっしゃもん小屋）の改修工事が無事完了しました。

②定例部会では、利用相談物件の管理を行いながら、それぞれの相談物件について意見を出し合い、担当者を選定して現地確認や相談者との面談など、適切な対応を検討しました。

③京都市文化財マネージャー育成講座 活用演習への講師派遣を行いました。

(2) 企画部会

①企画部会は一般市民が気軽に参加できる企画を中心に実施しています。

- ②10月6日7日に第21回全国集会を静岡県浜松市天竜区で開催しました。
- ③10月28日と11月17日18日に宇治市松殿山荘で「古材市」を開催。
- ④11月23日に松殿山荘で「竹の結界作りと男結び」を開催。
- ⑤12月1日にまちセンで「建築物の色付についての勉強会」を開催。
- ⑥12月22日にまちセンで「お正月に飾ろう、しめ縄づくり」を開催。
- ⑦4月21日から月1回「古材文化の会ふで文字じかん」をAotakeで開催。
- ⑧5月から6月に古材市のメンバーを中心に小川文齋窯の整理を援助。
- ⑨7月10日から平安神宮前広場「平安蚤（ノミ）の市」に月1回出店。
- ⑩8月7日黄檗山萬福寺の文化財修理現場見学会を開催。
- ⑪9月19日三十三間堂 室内照明器具(LED)改修工事見学会を開催。
- ⑫9月28日茶寮 aotake 文化講座「事例に学ぶ町家改修講座」①を開催。
文化財修復の見学会や古材市のスタッフを中心に活動が広がっています。

(3) 見守る部会

- ①見守る部会として正式に発足し、2年を経過しました。
- ②この2年間は、「立ち上げ期」として10件の建物を「見守るネット」に登録いただき、「修理」や「活用」、「継承」などそれぞれの抱える課題について、担当マネージャーが中心に対応を行い、その成果がでてきつつあるところです。
- ③8月には、京都工芸繊維大学で行われた「保存再生学シンポジウム」にて、歴史的建築物の保存活用を担う取り組みの事例として、「古材文化の会・見守るネット」の活動を報告させていただきました。
- ④これから3年目以降は「充実期」として、この活動の広げ方の議論が必要と考えています。

(4) 古材文化の会伝統建築保存・活用マネージャー会＝愛称KOMOMO

- ①毎月定例会を行い、各プロジェクトの活動の報告や協議を行い、その後、KOMOMOメンバーや外部の講師などを招いて、ミニ勉強会を開催しています。
- ②「全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会」の運営委員として参加し、全国の他団体との交流や情報交換を行っています。令和元年9月に函館で行われた総会と大会では、メンバーの永松氏、有井氏と共に参加し、総会議案の協議や各地の活動団体との親睦を図りました。
- ③今年度も引き続き「京都市文化財マネージャー育成講座（第11期）」のサポートを、西川リーダーを筆頭に10数名のメンバーで行いました。
また講座修了後（9月14日）に、受講生を対象としたスキルアップ見学会を長岡京市の「中野家住宅」にて、建物見学や活動についての勉強会を開

催しました。

- ④毎月第一木曜日にK O M O部会を開催し、定例会での協議事項や進行中のプロジェクトの進捗状況等について話し合っています。
- ⑤メンバーの自発的なプロジェクトを行っております。それぞれのメンバーが企画、会場や講師の手配、案内、予算組などを行い、多くのメンバーに参加して頂いております。現在は下記のプロジェクトが進行中です。
 - ・古文書同好会：毎月一回講師を迎え、古文書の基礎から学ぶ講座を開講。
 - ・おおさか KOMO：大阪の歴史や文化、建物などをテーマにして、大阪で開催。
 - ・ハンドブック PJ：調査時に有ると便利な（KOMO ハンドブック）の製作に向け、内容等を検討中です。
 - ・KOMO 活動の記録 PJ：メンバーがこれまでに関わってきた建物調査や報告書の作成、改修設計や施工についてもまとめた冊子を作成しています。
- ⑥和歌山県のヘリテージマネージャー団体代表の中西氏のお世話になり、高野山の歴史や建物を勉強する「K O M Oフェスタ 2018」を11月10日、11日に開催しました。
- ⑦京都市西京区の補助を受け、山口家住宅にある竜吐水を修復し、9月28日に地域防災を考えるワークショップを開催しました。

（5）歴史ある建物調査室

歴史ある建物調査室(歴調)では、第25期の活動計画として、「登録文化財や景観重要建造物の申請に関わる調書作成、また、市町村からの委託調査を行う」ということを掲げていました。

- ① 24期に引き続き、“京都を彩る建物や庭園”制度における認定候補建物調査として、昨年度末3月(一部6月)に平成30年度調査報告を提出、6月の審査会に諮り、9件の認定を受けています。
また、令和元年度調査に着手し、8件の調査に取り組んでいます。
- ②「認定」調査の他、制度としての基盤となる「選定」建物への推薦とスキルアップを兼ねた市内の一部地域のまち歩きを実施いたしました。(山科区・髭茶屋地区)
- ③過去の認定調査のアーカイブ作業に着手いたしました。
また、認定調査の増数や委託費用の増額などの協議に着手しました。
- ④京都府立文化博物館で開催された「辰野金吾没後100年 文博界隈の近代建築と地域事業」において、姉小路界隈を考える会等より依頼を受け、同界隈に集積する京都彩る建物や庭園制度による選定・選定建物についての解説展示パネルを作成し、提供いたしました。

(6) 年輪年代学研究所

- ① 「年輪年代学研究所」は、使用部材の年輪年代法による年代測定や使用木材の樹種同定を行う研究所です。建築年代の不明な建造物の年代判定や木材同定について所有者等から委託を受けて調査をしています。
- ② 25期は、会への調査依頼はありませんでした。

(7) 第11期京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）

- ① 「京都市文化財マネージャー育成実行委員会」の主催で「第11期京都市文化財マネージャー育成講座（建造物）」を開催しました。古材文化の会が講座の事務局を担当し、マネージャーの有志が講座の運営を支援しました。今期も、建築を専門とされていない受講者を主な対象として、初心者向けのビギナーズ講座（1日／自由参加）を実施しました。
- ② 講座受講者36名のうち、全科目を履修した23名が講座を修了し、優秀な修了レポートをまとめた4つの班に殊勲賞・敢闘賞・技能賞・特別賞が授与されました。また、今期の再履修により9名が講座を修了しました。現在、古材文化の会の伝統建築保存・活用マネージャーに360名が登録しています。